

平成25年度 第3回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 平成25年7月16日（火）13：30～15：30
- 2 開催場所 小平市中央公民館 会議室
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 13名
事務局 中央公民館長、館長補佐、管理係長、分館主査 10名
- 4 傍聴者 2名
- 5 配布資料 (1) 平成25年度公民館運営審議会計画表・・・・・・・・・・資料1
(2) 平成25年度行事等結果報告（分館のまつり実施）・・・・・・・・資料2
(3) 平成25年度東京都公民館連絡協議会定期役員会（第1回）記録
新任職員研修感想文集・・・・・・・・・・資料3
(4) 第54回関東甲信越静公民館研究大会
兼第64回新潟県公民館大会申込状況・・・・・・・・・・資料4
(5) 平成25年度第2回小平市公民館運営審議会会議要録・・・・・・・・資料5
(6) 平成25年度小平市公民館定期講座実施状況・・・・・・・・・・資料6
- 6 次第 (1) 館長報告
(2) 平成25年度公民館定期講座実施状況について
(3) 平成25年度公民館まつり開催報告について
(4) 平成25年度東京都公民館連絡協議会役員会・職員部会・委員部会
報告について
(5) 平成25年度第54回関東甲信越静公民館研究大会について
(6) 公民館のあり方の検討
(7) その他

会議の概要

1 館長報告

(1) 小平市節電対策基本方針について

公共施設では、7月から9月までの3ヶ月間、電力使用総量を平成22年度比15%削減を目標に節電に努めていく。

(2) 6月市議会定例会について

公民館に関連した一般質問は特になかった。

(3) 「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」について

文部科学省生涯学習施策局が平成25年度に設けた「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」に、小平市として申請し、7月5日付で採択され、事業を実施する方向で調整を進めている。

地域社会におけるさまざまな現代的課題に対して、公民館が関係諸機関と連携協働して、地域の絆、地域コミュニティの再生を実現し、地域活性化を図り、元気な日本を取り戻すことを目指す取組みとなる。テーマとしては、①若者の自立・社会参画支援、②地域の防災拠点形成支援、③地域人材による家庭支援、④地域振興支援、⑤その他地域の教育的資源を活用した地域課題解決支援の5項目があり、小平市は、②地域の防災拠点形成支援プログラムで申請し、採択された。具体的には、小平十三小学校地区を対象として、小川西町公民館が中心となり、防災をテーマに小学校と連携して講座、イベント等の事業を展開する。予算額は約169万円で、9月市議会の承認後、実施する。

(4) 仲町公民館・仲町図書館の改築について

仲町図書館の解体工事が7月10日に終了し、現在改築工事に着手している。平成26年9月30日に完成後の建物が引き渡される予定となっている。今月7月26日には、仲町公民館の部屋割り調整会議において、新仲町公民館の備品等の報告をする。また、開館の準備として、平成25年10月頃市報で愛称を募集し、平成26年4月に公表する予定となっている。

(質疑応答)

委員 文部科学省の「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」について、過去に採択された実績はあるのか。今回採択された事業は、誰が実施するのか。公民館運営審議会でも実施方法等について検討するのか。

事務局 今回初めて、文部科学省の委託事業に申請し、採択された。実施体制としては、小川西町公民館主査、中央公民館長補佐、中央公民館長が中心となり、小平十

三小学校学校支援ボランティア、小平市防災安全課、地域の二つの自治会の会長に協力を依頼する。

委員 こうした事業を実施するからには、特色ある成果を上げなくてはならない。事業の具体的な内容を知りたい。

事務局 まず、地域防災を考える会議を開催し、地域の課題を洗い出し、課題に対応した講座等を実施する予定である。また、防災ウォーキングを実施し、この地域独自の防災マップを作製したり、青少年対策十三小地区委員会と自治会の協力の下に、青少対まつりの中で、地域の防災訓練を実施し、若い世代と地域住民を結びつける。こうした活動の成果として、防災マニュアル等の冊子を作成し、戸別配布等を予定しており、最終的に地域のつながりをつくることを目標としている。

委員 公民館が中心となるということだが、こうした事業が採択され、実施されることは、公民館の基盤を固め、評価を上げる重要な機会になる。申請するときには公民館運営審議会の意見を聞いたり、実施するときには一緒に考えるようなことがあってもいいのではないか。

委員 十三小学校地区に決めた理由はあるのか。

事務局 平成 25 年 3 月に文部科学省から当該事業の募集があり、検討していたところ、十三小学校地区の地域の方からこうした取組みをしないかという協力依頼があり、申請することとした。

委員 防災については委員の関心も高いので、相談してほしい。また、他の地区でも要望があるかもしれないので、今後検討してほしい。

2 平成 25 年度公民館定期講座実施状況について
事務局より資料 6 について説明した。

(質疑応答)

委員 講座の受講希望者が多数の場合、抽選で受講者を決めているが、部屋の定員で制限せざるを得ないということか。公民館の部屋に限らず、近隣の学校の大部屋や体育館を借りる等の対応はできないか。

事務局 部屋の定員が限られているため、受講者を制限せざるを得ない。公民館で講座をやるのが、実際に足を運んで、公民館を知ってもらう機会になる。また、大人数でサークル化した場合、その後の活動が公民館でできるかという問題もある。公民館を使って、何回かに分けて開講することはできるかもしれないが、公民館以外の場所を使う点については、慎重に検討すべきと考える。

委員 公民館利用者を増やすことは、非常に重要な戦略だが、受講者を抽選で制限してしまうのはもったいない。落選して受講できなかった人の期待をつなぐ工夫をしてほしい。断る人が多い場合にはアンケート等を取り、希望する館を聞いておくと、他館で開講することもできるのではないか。

事務局 現場の職員や落選者から意見を収集し、今後検討していく。

委員 以前から男性の利用者を増やすことが課題となっているが、せっかく男性が応募しているのに、抽選で落選してしまうのはもったいない。受講者の男性と女性の比率を検討する必要があるのではないか。公民館の現状は、公民館まつりや講座に男性の姿が少なくなり、男性の後継者が不足している状況だ。公民館に目を向けている男性を活かさない手はないのではないか。

事務局 男性の利用者を増やすことは、引き続き課題となっているため、公平性は確保した上で、今後協議していきたい。

委員 あまりにも受講希望者が多い講座については、年度内に追加で開講する等の対応はとれないのか。

事務局 基本的には、財政措置をしない限り余剰の予算はない。講師によっては謝金が発生しない場合があり、その余剰分で追加の対応ができる場合もある。

委員 全国的に社会教育が縮小傾向にあり、社会教育行政が教育委員会の中にあるところは少数派で、一般行政に移行するところが増えている。一般行政に入れば公民館を市民行政化しようという動きも出てくる。こうした流れの中で、これほど多くの応募があるのは貴重だ。ただルールに忠実にやるのではなく、さらに広げていく取組みをしなければならない。受講者の受け入れについては、一つのテーマとして公民館運営審議会でも議論し、案をつくったほうがいいのか。

事務局 これまでのやり方のよいところもあるので、よく協議すべきと考える。

委員 今年度から分館でも開講される高齢者学級は、サークル化した場合に、どのような活動を行っていくことを想定しているのか。

事務局 現役を引退した高齢者の居場所として、また、公民館を使ってそれぞれの特技を活かし、地域貢献につなげることを高齢者学級の目的にしている。受講者が継続した学習をできるように、ぜひサークルを設立してほしいと考えている。中央公民館で従前から実施してきたシルバー大学は、近年、ほぼ100%がサークル化している。分館でも地域のリーダー的な存在になる人材の育成につなげたい。

委員 定期講座実施状況については、各館から具体的に事業の進捗状況について説明してもらおう機会だ。できれば、それぞれの講座が年度当初の事業計画のどの部分に当たるのかを踏まえながら説明してほしい。

3 平成25年度公民館まつり開催報告について 事務局より資料2について説明した。

5月から6月にかけて、仲町公民館（5月18日、19日）、上宿公民館（5月25日、26日）、花小金井南公民館（6月1日、2日）で公民館まつりが実施された。3館とも天候に恵まれ、多くの来場者があった。

仲町公民館では、小中学生の作品展示の他、数年ぶりに学園東小学校スマイル合唱団の出演があり、子どもや保護者の姿が多く見られた。

上宿公民館では、「子どもを本好きにするために」という講演会を実施し、子どもや孫に読み聞かせをしたい人に好評だった。その他、サークルの展示発表や近隣農家の野菜の直売等もあり地域の人でにぎわっていた。

花小金井南公民館では、子ども向けのイベントやバザー等が好評で、異世代の交流の場となった。地域の隅々まで声かけをし、出展や出演がなくても協力してくれるサークルが増え、地域の人々の協力で無事終了した。

（意見等）

委員 どの公民館まつりでも、小中学生の参加があり、にぎわっていたが、自分たちの発表の後、他のサークルをみていくところもあれば、終わるとすぐに帰って

しまうところもあった。公民館で何をやっているのかを、もう少し見てもらえるとよいのではないか。

- 4 平成 25 年度東京都公民館連絡協議会役員会・職員部会・委員部会報告について事務局、委員より資料 3 について説明した。
- 5 平成 25 年度第 54 回関東甲信越静公民館研究大会について事務局より第 54 回関東甲信越静公民館研究大会の申込状況について説明した。
(集計作業中につき資料 4 不着。)
- 6 公民館のあり方の検討

近隣市等では、受益者負担や指定管理者制度を導入する動きがあり、小平市行財政再構築推進委員会では、地域センターと公民館について、統配合の対象となるという意見も出ている。そうした動きの中で、公民館運営審議会委員と公民館職員の公民館あり方検討プロジェクトチームの中では、どのように公民館利用者を増やすかを重要な課題として検討している。

中央公民館長の方向性に基づき、検討を進めているが、最終的に市民団体が公民館を運営するという点については、さまざまな意見があり、委員の多くは否定的な立場だった。ただ、先行的に市民団体が公民館を運営している藤沢市の事例もあるので、小平市の「公民館のあり方の検討」の参考にするため、8月6日に視察を行うこととなった。

7 その他

事務局より以下の点について報告した。

(1) 市民学習奨励学級について

1回4コース、5回5コースの講座を実施する9団体が決定した。

(2) 夏休み学習室の実施について

8月1日から31日まで、鈴木公民館を除く10館で、学習室の開放を実施する。

小川西町公民館では、8月3日、4日の午後1時30分から3時30分まで、元小学校教諭等が小学生を対象に学習指導を行う。

今回は、9月17日(火)午後1時30分より、中央公民館会議室にて開催する。